

CO2排出量算定ツールの紹介

事務局

目次

- 01 脱炭素経営に向けた取組み着手の必要性
- 02 脱炭素経営に取り組むメリット
- 03 脱炭素経営を実践するためのステップ
- 04 なぜCO2排出量の見える化が必要なのか
- 05 CO2排出量等算定ツール
- 06 クラウドとExcelの比較
- 07 クラウドツール（ちゅうぎんGXボード）のご紹介
- 08 まとめ

01

脱炭素経営に向けた取組み着手の必要性

脱炭素経営とは

- 気候変動対策(脱炭素)の視点を織り込んだ企業経営のことで、経営リスク低減や成長のチャンス、経営上の重要課題として全社を挙げて取組むもの。
- 中小企業にとって、カーボンニュートラルのに向けた取組みは、優先順位が低いと思われがちだが、脱炭素経営を事業成長へのチャンスと捉え、カーボンニュートラルに向けて全社を挙げて取組み、新たな強みを作ろうとする考え方が広まっている。

必要性

①サプライチェーン



- 大企業は自社のみならず、サプライチェーンの上流・下流を含めたCO2排出量削減策の対応が必要。
- 中堅・中小企業においても、大企業を中心としたサプライチェーンの脱炭素化の動きの下、間接的に影響を受けることから、自分ごととして捉えて、脱炭素経営に向けた取組みに着手することが必要。
- 直接的に大企業と取引がない場合でも、サプライチェーンの上流・下流に属する企業として間接的に影響を受ける可能性もある。

②カーボンプライシング

- 2026年 排出量取引制度開始予定
- 2028年 炭素税導入予定
など脱炭素経営に向けた取組みに着手する必要性が高まっている。

1

優位性の構築

- 取引先からの脱炭素化の要請に対応することができ、売上や受注機会を維持または拡大することができる。

2

光熱費・燃料費の低減

- エネルギー消費の効率化や再エネ活用等により、電気料金をはじめとする光熱費・燃料費を削減できる。

3

知名度や認知度の向上

- いち早く脱炭素経営に取り組むことで、先進的企業としてメディアへの掲載や国・自治体からの表彰を受け、知名度や認知度が向上する。

4

社員のモチベーション向上
や人材獲得力の強化

- 気候変動問題に取り組む姿勢を示すことで、社員の共感・信頼を獲得し、社員のモチベーション向上につながる。
- 環境に配慮した会社で働きたいという意欲を持った人材の確保につながる。

5

資金調達の優位性

- 金融機関においては、ESG投資(環境・社会・企業統治を評価する投資)など、融資先の選定基準に地球温暖化への取組状況を加味し、脱炭素経営を進める企業への融資条件を優遇する取組みも行われており、新たな資金調達にあたり、有利に働く。



① 知る

脱炭素経営って何をすればいい？



② 測る

活動量の調査と排出係数をチェック



③ 減らす

CO2の削減できる場所はどこ？

➤ CO2排出量を見える化することは、企業や組織が環境負荷を理解し、削減のための対策を講じるうえで非常に重要。

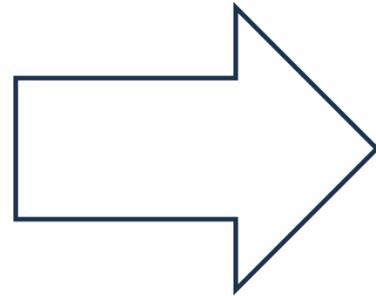
➤ 見える化によって、どこでどの程度CO2が排出されているかを把握し、効率的な削減施策を講じることができる。

ニーズ

エネルギー使用量の推移を把握したい

CO2排出量を算定したい

エネルギー使用量やCO2排出量の削減計画を立てたい



Excelやシステムを使って、エネルギー使用量を入力することで、排出量を算定できる

CO2排出量等算定ツール

日本商工会議所
CO2チェックシート

民間事業者
のツール



Excelにエネルギー使用量を入力することで、排出量を自動計算

<https://eco.jcci.or.jp/checksheet>



企業排出CO2量診断/CO2排出量・一次エネルギー換算エネルギー使用量チェックシート(毎月入力用)

(注) 電気の購入先事業者のコードを、右表にしたがってプルダウンから選択してください。

			()年度												累計 (A)	単位	電力事業者 コード(半角)	排出係数 (B)	単位 発熱量 (C)	累計 CO2排出量(kg-CO ₂) ((A)×(B))or((A)×(B)× (C))		累計 一次エネルギー換算 エネルギー使用量(MJ) (A)×(C)		累計 使用料金 (円)
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						CO2排出量	一次エネルギー 使用量	CO2排出量	一次エネルギー 使用量	
電力	使用量	実数														kWh	1	9.97	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.601 (kg-CO ₂ /kWh)	(MJ/kWh)						
	使用料金	金額														円								
灯油	使用量	実数														L	-	36.7	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0679 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/L)						
	使用料金	金額														円								
A重油	使用量	実数														L	-	39.1	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0693 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/L)						
	使用料金	金額														円								
都市ガス	使用量	実数														Nmf	-	41.1	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0513 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/Nmf)						
	使用料金	金額														円								
液化天然ガス (LNG)	使用量	実数														kg	-	54.6	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0494 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/kg)						
	使用料金	金額														円								
液化石油ガス (LPG)	使用量	実数														kg	-	50.8	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0598 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/kg)						
	使用料金	金額														円								
ガソリン	使用量	実数														L	-	34.6	CO2排出量		一次エネルギー 使用量			
		CO2 排出量														g-CO ₂	0.0671 (kg-CO ₂ /MJ)	(MJ/L)						
	使用料金	金額														円								

出典: 日本商工会議所HPより抜粋



民間事業者の
ツール

経済産業省の「中小企業支援機関によるカーボンニュートラル・アクションプラン」の登録者の中で、温室効果ガス排出量の算定ツールを提供している事業者もいる。

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/SME/index.html



支援機関名	アクションプランの概要
e-dash株式会社	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会の実現に向けた、三井物産100%出資によるサービス CO2排出量の可視化から削減支援まで、中小企業の脱炭素への歩みを総合的にサポートする、ウェブベースのサービス HP : https://e-dash.io/ 
株式会社ゼロボード	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出量の算出・可視化クラウドサービス「zeroboard」等の提供を通じた経営課題の解決 HP : https://zeroboard.jp/ 
アスエネ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> スキャンするだけでScope1～Scope3までのCO2排出量を自動で見える化。具体的な削減施策のご提案(SXコンサル支援の提供)。TCFD・CDPなどの国際イニシアチブへの情報開示支援。など、脱炭素経営をワンストップでサポートできるのがアスエネの主な特徴。 HP : https://earthene.com/asuzero 

※「中小企業支援機関によるカーボンニュートラル・アクションプラン登録リスト」より温室効果ガス排出量算定ツールを提供している会社を抜粋

入力ツール	メリット	デメリット
クラウド	<ul style="list-style-type: none">✓ データが自動でバックアップされるため、紛失リスクが低い✓ 最新の排出係数や法令に自動対応している✓ データを複数人でリアルタイムに共有・編集できる✓ 過去データやレポートの蓄積・可視化が容易	<ul style="list-style-type: none">✓ サブスク費用が継続的に必要✓ インターネット接続が必須✓ サービス提供側の仕様変更や終了リスクがある
Excel	<ul style="list-style-type: none">✓ サブスク費用が不要✓ オフラインでも利用が可能✓ Excelの操作に慣れている人が多い✓ カスタマイズしやすい	<ul style="list-style-type: none">✓ 計算ミスや入力ミスが発生しやすい(マクロや数式の破損など)✓ 排出源単位データベースが更新されるたびに対応が必要✓ 複雑な条件での算出が難しく、データ化やグラフ化にも手間がかかる✓ セキュリティ管理がクラウドに比べて脆弱

クラウドツール（ちゅうぎんGXボード）のご紹介

温室効果ガス排出量算定クラウドツール ちゅうぎんGXボード



脱炭素経営に取り組むうえで、このような悩みや課題はありませんか？

- ✓ 自社がどれだけCO₂を出しているのかわからない
- ✓ CO₂を算定するノウハウや時間がない
- ✓ コストを極力かけたくない
- ✓ Excelで算定したが、データの更新や管理がめんどろ など



ちゅうぎんGXボードの主な特徴

**見やすさ！
使いやすさ！**

初めて使う方でも簡単に作業ができる高い操作性と視認性のダッシュボード

お手頃！

排出量の算定に特化したシンプルな機能を無料または安価でご提供

楽！

クラウド管理により最新のルールや算定に使用する排出係数は自動でアップデート

お客様のニーズに応じて、3種類のプランをご用意



- はじめに排出量の算定に取組まれる方
- 営業所や工場など6か所以上の拠点をもちの方
- 自社のみならずバリューチェーン全体での算定をご希望される方

プラン名	Light	Middle	High
算定範囲	Scope1,2	Scope1,2	Scope1,2,3
I D発行数	1	5	10
最大登録拠点数	5	20	20
ご利用手数料(税込)	無料	9,900円/年	19,800円/年 ※2年目以降は132,000円/年

Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼など）
Scope2：他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope3：Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）



お申込みについては、当行窓口または担当者までご相談ください。



よくあるご質問

- Q 中国銀行との取引がないのですが、申込ができますか？
A 本サービスのご利用は中国銀行とお取引のある法人のお客様にのみ限ります。
- Q 脱炭素について全く知識や経験がなくても入力操作は可能ですか？
A 初めての方にも安心してご利用いただけるよう、専用のマニュアルをご用意しております。
- Q 入力したデータを取引先への報告に使用することはできますか？
A 入力されたデータや算出結果を帳票出力し、取引先にご提出することができます。

※ 本サービスは、株式会社ゼロボードとの業務提携および開発協力のもと、お客様に提供しています。
※ 株式会社ゼロボードは、業界随一の導入企業数を誇るGHG排出量算定・可視化ソリューション「Zeroboard」を提供する事業者です。

----- 本サービスに関するお問い合わせ -----

株式会社中国銀行 _____

担 当 _____

中国銀行
(コ営・第8号・2024.8.1現在)

- 脱炭素経営に取り組むことで、取引先からの脱炭素化の要請に対応することができ、売上や受注機会を維持または拡大することができる。
- CO2排出量を算定(見える化)することは、企業や組織が環境負荷を理解し、削減のための対策を講じるうえで非常に重要。
- 見える化によって、どこでどの程度CO2が排出されているかを把握し、効率的な削減施策を講じることができる。

アンケートのご回答にご協力ください

「第1回ゼロカーボン研究会」アンケート

【開催日：令和7年6月2日（月）】

本日は本研究会にご参加いただき、誠にありがとうございます。
以下の二次元コードからアンケートにご協力いただけますようお願いいたします。



※ご記入いただいた情報は、主催者および講師、岡山市が共有し、今後の企画や情報提供などに活用させていただきます。